

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク 国際シンポジウム（報告） （「地球環境と世界市民」国際協会後援）

「環境倫理にもとづいた環境教育の国際ガイドラインの構築に向けて」を終えて

2006年1月28～30日に、「環境倫理にもとづいた環境教育の国際ガイドラインの構築に向けて」（於：兵庫県立美術館 / 甲南大学）をテーマとし、地球変動研究に関する自然科学・社会科学・人文科学の統合的な「知」の観点から、本シンポジウムが開催された。

環境教育の研究については、「環境教育学」が必要といわれながらも、現在、十分に理論化されていないように思われる。環境教育学を体系化するためには、環境教育の用語と教材を「共有化」することによって、それらが個々の専門分野との架け橋として「スタンダード化」されることが必要である。その上で、環境倫理および国際的な宣言や憲章などにもとづいた「国際的なガイドライン」の枠組みの構築が求められている。

本シンポジウムでは、日本、マレーシア、タイ、インド、オーストラリア、カナダとのアジア・環太平洋地域のネットワークをより充実し、環境教育の基本的な用語と教材の共有化、専門を横断する環境教育のスタンダード化、環境教育の方向づけを示唆するガイドライン化をめぐる議論が展開された。

第一日目（28日）は、記念講演「日本の博物館における環境教育の展開 博物館のガイドラインをめぐる」（中川志郎 / 日本博物館協会会長）、基調講演「宗教的倫理に根ざした環境教育の提案 多様な文化・宗教における共通の価値観を基盤とした環境教育」（Azizan BAHARUDDIN / マレーシア・マラ



記念講演 / 中川志郎氏



基調講演 / 谷口文章氏



パネルディスカッション

や大学教授) 基調講演 「日本における環境教育の展開と環境倫理による方向づけ 自然・生命・農業・文化・宗教・倫理の理念的テーマの意義と課題」(谷口文章/甲南大学環境総合研究所所長) パネルディスカッション 「環境教育の国際ガイドラインの構築」を行なった。

第二日目(29日)は、教材開発プロセスについて「カナダにおける海の環境教育教材の開発プロセス

国際的な環境教育マニュアル・プログラム開発のためのガイドライン」(Gloria SNIVELY/カナダ・ヴィクトリア大学教授)やe-ラーニングに関する「遠隔情報システムを活用した環境教育のデモンストレーション」(見上一幸/宮城教育大学教授 他)に関するワークショップを開催し、教育関係者、研究者、NPO/NGO、行政関係者等の参加を得て、環境教育の指導にあたってのスキルの向上をねらった。またパネルディスカッション では「アジア・環太平洋地域における環境教育教材の共有化」をめざし、各ゲストスピーカーより具体的な教材開発と人材育成についての示唆があった。また本シンポジウムでは、タイ・プラナコーン=ラジャバト大学とTV会議システムを使用しながら、海外とリアルタイムに意見交流の場面を持つなど、e-ラーニングによる画期的な取り組みとなった。

第三日目(30日)は、研究者・専門家による「環境倫理にもとづいた環境教育の国際比較研究」を行うとともに、二日間の成果をふまえ、環境教育の国際ガイドラインを具体的に各国で運用するために必要なアジア・環太平洋地域のネットワークの役割と今後の行動計画について検討した。

全日を通して314名にのぼる人々が参加し、盛況のうちに終わることができた。APN共同プロジェクト(日本=マレーシア)は3年間にわたるが、これらの成果は最終的にアジア・環太平洋諸国において、環境教育の主体的で柔軟な国際ガイドラインの枠組みを開発・共有し、具体的にどのような地域にも妥当する環境教育の推進の支援をめざす。

谷口文章(大会長/甲南大学環境総合研究所)



気仙沼小学校との遠隔授業のデモンストレーション(ワークショップ)



TV会議システムによるタイとの意見交流



パネルディスカッション



国際研究会

Guidelines for the Environmental Education Focusing on Environmental Ethics and Human Dimension of Global Change

• Main objectives of the project

The fundamental objectives of the project of Guidelines for Environmental Education Focusing on Environmental Ethics and Human Dimension of Global Change cooperated between Konan University, Japan and University of Malaya, Malaysia are:

- (1) To make full use of participating countries' experience & knowledge of global change research to formulate guidelines for environmental education & sustainable development.
- (2) To fill the existing gaps among teachers & other stakeholders involved, such as global change experts, decision-makers, etc., by developing methods/modules for environmental education that can be used as a basis for countries in Asia.

The project is planned for approximately two years from November, 2005 to December 2007, and will include two "sets" of international symposia and workshops the first in Kobe, Japan, and the second in Kuala Lumpur, Malaysia.

• Some of outcomes of the project

- (1) To hold a symposium and workshops that will:
 - a. Elaborate the concept of environmental education that focuses on ethics and the human dimensions of global change.
 - b. Elaborate and identify the potential role of networks such as APN in the region.
 - c. Establish skeletal guidelines for environmental education that are flexible to suit the needs of countries in the Asian region.
- (2) To hold short courses/workshops and site visits in order to: develop Curriculum and Materials, and develop documentaries on DVD/CD-ROM.
- (3) To introduce curricula and models that can be used in mainstream education systems.
- (4) To publish and disseminate information on environmental education and sustainable development that highlights the latest discoveries, techniques, technologies, and strategies for environmental sustainability.
- (5) To establish a network of resource persons for environmental education

and sustainability.

(6) To establish empowered communities who have increased awareness of their roles and contributions to environmental and sustainable issues.

• Report of the International Symposium: Establishing Guidelines for Environmental Education Based on Environmental Ethics, 2006

We held the first International Symposium from January 28th -30th, 2006 in Kobe having 314 participants, in order to assist in the development and promotion of knowledge of natural science related to global change research.

The objective of the symposium is to establish preliminary international guidelines for environmental education and, in the process, establish initial partnerships in the Asia-Pacific region between many countries including Australia, Canada, India, Japan, Malaysia and Thailand.

In this symposium, we discussed that we progressed the Asia-Pacific Region Network, shared the basic terms and materials on environmental education, standardized environmental education crossing the various study fields, such as natural, social and human sciences.

On Day 1 of the symposium, Keynote Speech I Development of Environmental Education in Japanese Museum by Dr. Shiro NAKAGAWA, President of Japanese Association of Museums, Keynote Speech II Proposal of Environmental Education Based on Religious Ethos by Prof. Azizan BAHARUDDIN, Malaya University these speeches and a panel discussion was the Standardization of Global Guidelines for Environmental Education Based on Environmental Ethics made by pioneering scholars and practitioners from Asia-Pacific countries.

On Day 2, two workshops were held. The first was on developmental procedures to create materials for coastal environmental education, and the second focused on demonstrating e-Learning activities in environmental education programmes between universities. The aim of the workshops was to improve the quality of teaching and training skills for environmental education for the general public, teachers, NGOs and local government officials. A second panel discussion focused on Common Materials for Environmental Education in the Asia-Pacific Region.

On Day 3, the organizers promoted the establishment of preliminary Guidelines for Environmental Education Based on Environmental Ethics. These guidelines have been generated from a specialists' study meeting and will incorporate environmental education as well as outline the role of networks in the region in implementing the guidelines at local, national

and regional levels.

And we discussed about the left half of the project plan in Malaysia for next year how to hold the second symposium and how to carry out the project fully aiming to establish more universal guidelines and important roles of networking in environmental education in the Asia-Pacific region.

(APNニュースレター、4月号より転載)

第5回国際保健医療行動科学会議

「健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育 -」のご案内

第5回国際会議大会実行委員長・「地球環境と世界市民」国際協会会長
谷口文章

この度、第5回国際保健医療行動科学会議を、2006年8月16日(水)～21日(月)に、タイ・バンコク プラナコーン=ラジャバト大学において開催致します。今回は「健康と環境をめぐる教育 統合医療と環境教育」というテーマのもと、記念講演、基調講演、ワークショップ、エクスカ-ジョン、オプショナルツアーを企画しております。

今日、科学技術の発達による自然や社会の急激な改変とともに、私たちの「健康と環境」の状況も大きく変化しつつあります。保健医療をめぐるさまざまな生命の課題に直面しています。他方、地球環境問題においては、環境汚染状況がますます広汎化し深刻化しており、地球温暖化、酸性雨、森林伐採、砂漠化、稀少種の減少、生物多様性の減少などの課題があります。これらの課題を解決するためにはホーリズムと統合の視点から「いのちと環境をめぐる教育」が必要となります。

21世紀の「健康ないのちと健全な環境」を維持していくために、国際会議によるグローバルな視野より「統合医療と環境教育」について研究・討議を進め国際交流を深めたく存じます。

本会議のテーマは、環境教育に加えて、従来議論されてきた「ヘルスプロモーション」「QOL(クオリティ・オブ・ライフ)」「自己決定」「セルフケア」「医療倫理」「ターミナル・ケア」「グリーフケア」「健康」「全人的医療」「ナラティブ」などのキーワードを踏まえたうえで、日本だけでなく国際的な視野から保健医療行動科学を学際的な視点から議論し発展させることを目指しています。

本会は1986年設立より現在までに4回の国際会議を主催してきました。ここで歴史的な変遷とともに振り返っておきますと、第1回国際保健医療行動科学会議「ヘルスケアにおける伝統と現代性 A Transcultural Discussion」(会期:1988年8月11～13日、会場:Hawaii / Pacific Beach Hotel, Honolulu) 第2回会議「21世紀のケアシステムを提言する “The Health Care Systems, How Should It Be in 21st Century?”」(会期:1991年9月27～29日、会場:東京/上智大学)、第3回会議「危機と行動-成長と連帯 Crisis Behavior toward Growth & Solidarity」(会期:1996年9月27～29日、会場:東京/上智大学) 第4回会議

「『健康』のための統合的アプローチ Integrated Approaches to Health」(会期：2001年8月24～27日，神戸/甲南大学)といったテーマが取り上げられ、世界各国からの参加者たちによって保健医療関連分野からの行動科学研究・教育に関する討議が重ねられてきました。

今回、さらに保健医療分野における「健康と環境をめぐる教育」のテーマを国際的にとりあげ、自然科学・社会科学・人文科学のそれぞれの分野から統合的な議論を展開したく企画しております。また、エクスカーションでは、ビハーラ(終末期患者のための仏教系医療施設)への訪問を予定しております。

多数の皆さまの御参加をお待ちしております。

会議概要

- 1 メインテーマ：健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育 -
- 2 会 期：2006年8月16日(水)～8月21日(月)
- 3 会 場：タイ・バンコク プラナコーン=ラジャバト大学 /
Phranakhon Grand View ホテル会議室
- 4 使用言語：英語
- 5 主 催：日本保健医療行動科学会
「地球環境と世界市民」国際協会
- 6 実施主体：第5回国際保健医療行動科学会議実行委員会
- 7 共 催：プラナコーン=ラジャバト大学(タイ)
- 8 協 力：チュラロンコン大学(タイ)

プログラム(若干変更の可能性あります)

(1日目)8月16日 (水)

タイ・バンコク：ドン・ムアン空港着

(2日目)8月17日 (木)

エクスカーション：ビハーラ(終末期患者のための仏教系医療施設)訪問

(3日目)8月18日 (金) 於 :PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel会議室

オープニング・セレモニー

・プラナン・キトラットポー(タイ/プラナコーン=ラジャバト大学学長)

・宗像恒次(第5回国際保健医療行動科学会議長)

記念講演

・渥美和彦(日本統合医療学会理事長)

「統合医療の国際的動向と代替・相補医療(CAM)の総合的研究」

・ナンシー・ターナー(カナダ/ヴィクトリア大学教授)

「環境教育と統合医療-カナダ・ファーストネーションによる民間療法をめぐる-」

研究発表・ポスター発表

ウェルカムパーティ

(4日目)8月19日 (土) 於 :PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel会議室

基調講演

- ・宗像恒次（日本 / 筑波大学大学院）
「統合保健医療における依存と自立
- がんの心理社会的教育とサポートの探求 - 」
- ・谷口文章（日本 / 甲南大学教授）
「生命と環境をめぐる倫理と教育 - 統合医療と環境教育 - 」

シンポジウム

「健康と環境の教育 統合医療と環境教育 - 」

コーディネーター：藤崎和彦（日本 / 岐阜大学教授）【保健医療】

タワウ・カハスワ(タイ) プラコソ=ラジ ャハト大学環境教育センター顧問）【環境教育】

シンポジスト：

- ・ジャリヤ・ブーンジャワット（タイ / チュラロンコン大学）
- ・ナンシー・ターナー（カナダ / ヴィクトリア大学）
- ・元村直靖（日本 / 大阪教育大学）
- ・シリット・スダートック(タイ) プラコソ=ラジ ャハト大学環境教育センター長）
- ・白郁華（中国 / 北京大学教授）
- ・今井佐金吾（日本 / 広島修道大学教授）

サテライト・シンポジウム【第一部】

A-1 分科会（保健医療セッション）「行動変容についての実践的研究」

B-1 分科会（環境教育セッション）「国営公園における環境教育の導入 - e-ラーニングによるタイ・日本の学術交流 - 」

(5日目) 8月20日 (日) 於 : PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel 会議室

サテライト・シンポジウム【第二部】

A-2 分科会（保健医療セッション）「当事者参加のヘルス・プロモーション」

B-2 分科会（環境教育セッション）「環境教育教材の共有化をめぐって - アジア環太平洋地域の国際環境教育ガイドラインの構築 - 」

ワークショップ

A 分科会：保健医療セッション「民間医療（マッサージ）」

B 分科会：環境教育セッション「マングローブ植林と環境教育実践」

フェアウェルパーティ

(6日目) 8月21日 (月)

【午前】 オプショナル・ツアー（バンコク市内）

【21:00】 タイ・バンコク：ドン・ムアン空港（22日早朝：帰国）

問合先 第5回国際保健医療行動科学会議・実行委員会 事務局

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部 谷口文章研究室 気付

TEL/FAX: 078-435-2368

E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

ネットワーク掲示板

日本保健医療行動科学会認定健康行動科学士資格研修会

日時：2006年5月28日(日) 場所：甲南大学

(春季・近畿地区)

- 9:00-9:20 受付・開会の辞
 9:20-12:30 アロマセラピー実習（相原由花氏・ホリスティックケア総合学
 院、関西医科大学アロマケアルーム）
 13:40-15:10 保健医療論入門（柳井勉氏・関西福祉科学大学）
 15:20-16:50 パス解析・共分散構造分析法（奥富庸一氏・早稲田大学）
 （13:40-14:40の時間帯に認定試験も行ないます。）

当日の講義時間帯や会場については、日本保健医療行動科学会のホームページ
 （<http://homepage1.nifty.com/jahbs/>）で随時ご確認ください。

問合先：認定健康行動科学士資格研修会事務局（近畿地区）
 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部谷口研究室気付
 Tel/Fax：078-435-2368 E-mail：fumiaki@konan-u.ac.jp

日本保健医療行動科学会 第102回近畿支部研究会

日時：2006年5月13日（土）15:00-17:30/ 場所：大阪産業大学
 話題：未定 / 講師：村岡潔氏（佛教大学） / 参加費：500円（会員・学生・非会員）
 問合先：日本保健医療行動科学会近畿支部事務局
 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4 神戸市看護大学 吉岡研究室
 Tel/Fax:078-794-8074 E-mail:yoshioka@tr.kobe-ccn.ac.jp

第21回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内

日 時：2006年6月17日（土）・18日（日） 会 場：大阪産業大学
 テーマ：「ナラティブとアート」
 大会申込：郵便振替にて、住所、氏名、電話番号（またはE-mail アドレス）、通信
 欄に振込み金額の内訳をご記入の上、下記口座にお振込み下さい。事前の参加申し
 込みは5月末日までをお願いします。
 口 座 番 号：00980-2-251700 口座名：第21回日本保健医療行動科学会大会
 大会参加費：会員4000円、非会員4500円、学生3000円、1日コース非会員3000円
 懇 親 会：一般（会員、非会員）4500円、学生2500円
 大会申込先・問合先：大会事務局 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4 神戸市看護
 大学吉岡研究室 Tel/Fax:078-794-8074 E-mail:yoshioka@tr.kobe-ccn.ac.jp
 大会ホームページ：<http://www.tr.kobe-ccn.ac.jp/~yoshioka/21jahbs/>

事務局だより

2006年8月に国際会議を開催致します。詳細につきましては、別添セカンドアナ
 ウンスメントをご参照ください。お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

『地球環境と世界市民』国際協会ニュースレター No.20

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内

Tel/Fax:078-435-2368 E-mail:fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage:http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html